

CHNOLOGY 3A低ドロップアウト・レギュレータ マイクロプロセッサ・アプリケーション用

特長

■ ドロップアウト電圧: 0.6V(IOUT = 3A)

■ 高速過渡応答 ■ 出力電流: 3A ■ 静止電流:400µA ■ 保護ダイオードが不要 ■ 固定出力電圧: 3.3V

■ ドロップアウト時の制御された消費電流

■ シャットダウン時I₀ = 125uA

■ 3.3μFの出力コンデンサで安定動作

■ バッテリ逆接続保護

■ 逆出力電流なし

■ サーマル・リミット内蔵

アプリケーション

- マイクロプロセッサ・アプリケーション
- スイッチング電源のポスト・レギュレータ
- 5Vから3.3Vのロジック用レギュレータ

概要

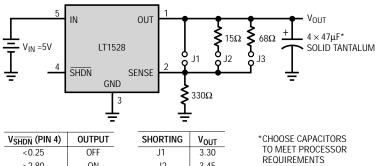
LT®1528は、現世代のマイクロプロセッサによる大きな 負荷過渡電流を扱うために最適化された、3A低ドロッ プアウト・レギュレータです。このデバイスは現在入手 可能なPNPレギュレータの中では、最高速の過渡応答を 達成しており、コンデンサのESRの変動に対する許容範 囲が広くなっています。ドロップアウト電圧は、10mA 時に75mVであり、1Aでは300mV、3Aでは600mVに上昇 します。静止電流は400uAです。静止電流は十分に制御 されており、ドロップアウト時に大幅に増加することは ありません。このレギュレータは、最低3.3μFの出力コ ンデンサで動作可能ですが、多くのマイクロプロセッ サ・アプリケーションに要求される性能を達成するに は、さらに大きなコンデンサが必要です。LT1528の出 力電圧は、3.3Vに固定されています。簡単な抵抗分圧器 を接続し、外部センス・ピンを使用すれば、出力電圧を 3.3V以上に調整できます。したがって、インテル、 IBM、AMD、Cyrix社製の各種プロセッサで要求される 3.3V~4.2Vの電圧範囲を含む、広い出力電圧範囲での調 整が可能です。

LT1528は、逆入力および逆出力の両方の保護機能と シャットダウン機能を備えています。シャットダウン時 には、静止電流は125μAに減少します。LT1528は5ピン TO-220および5ピンDDパッケージで供給されます。

▲ブ、LTC、LTはリニアテクノロジー社の登録商標です。

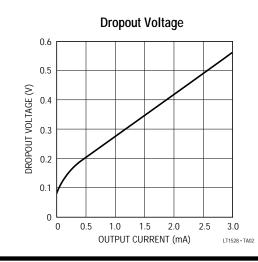
TYPICAL APPLICATION

Microprocessor Supply with Shutdown



>2.80 ON NC ON J2 3 45 J3 4.00

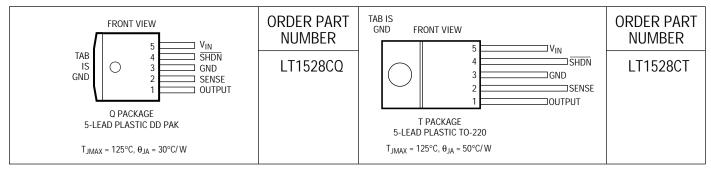
LT1528 • TA01



ABSOLUTE MAXIMUM RATINGS

Input Voltage	. ±15V*
Output Pin Reverse Current	10mA
Sense Pin Current	10mA
Shutdown Pin Input Voltage (Note 1) 6.5\	/, -0.6V
Shutdown Pin Input Current (Note 1)	5mA

PACKAGE/ORDER INFORMATION



Consult factory for Industrial and Military grade parts.

ELECTRICAL CHARACTERISTICS

PARAMETER	CONDITIONS		MIN	TYP	MAX	UNITS
Regulated Output Voltages (Notes 2, 3)	V _{IN} = 3.8V, I _{OUT} = 1mA, T _J = 25°C		3.250	3.300	3.350	V
	4.3V < V _{IN} < 15V, 1mA < I _{OUT} < 3A	•	3.200	3.300	3.400	V
Line Regulation (Note 3)	ΔV_{IN} = 3.8V to 15V, I_{OUT} = 1mA	•		1.5	10	mV
Load Regulation (Note 3)	ΔI_{LOAD} = 1mA to 3A, V_{IN} = 4.3V, T_J = 25°C			12	20	mV
	$\Delta I_{LOAD} = 1 \text{mA to } 3A, V_{IN} = 4.3 \text{V}$	•		15	30	mV
Dropout Voltage (Note 4)	$I_{LOAD} = 10$ mA, $T_J = 25$ °C			70	110	mV
	$I_{LOAD} = 10 \text{mA}$	•			150	mV
	$I_{LOAD} = 100 \text{mA}, T_J = 25 ^{\circ}\text{C}$			150	200	mV
	$I_{LOAD} = 100 mA$	•			250	mV
	$I_{LOAD} = 700 \text{mA}, T_J = 25^{\circ}\text{C}$			280	320	mV
	$I_{LOAD} = 700 \text{mA}$	•			420	mV
	$I_{LOAD} = 1.5A, T_J = 25^{\circ}C$			390	450	mV
	$I_{LOAD} = 1.5A$	•			600	mV
	$I_{LOAD} = 3A$, $T_J = 25$ °C			570	670	mV
	$I_{LOAD} = 3A$	•			850	mV

ELECTRICAL CHARACTERISTICS

PARAMETER	CONDITIONS		MIN	TYP	MAX	UNITS
Ground Pin Current (Note 5)	$I_{LOAD} = 0mA, T_J = 25^{\circ}C$			450	750	μA
	$I_{LOAD} = 0mA, T_J = 125^{\circ}C \text{ (Note 6)}$			1.9		mA
	$I_{LOAD} = 100 \text{mA}, T_J = 25 ^{\circ}\text{C}$			1.2	2.5	mA
	$I_{LOAD} = 100 \text{mA}, T_J = 125 ^{\circ}\text{C (Note 6)}$			2.7		mA
	$I_{LOAD} = 300 \text{mA}, T_J = 25 ^{\circ}\text{C}$			2.6	4.0	mA
	$I_{LOAD} = 300 \text{mA}, T_J = 125 ^{\circ}\text{C (Note 6)}$			4.1		mA
	$I_{LOAD} = 700 \text{mA}, T_J = 25 ^{\circ}\text{C}$			7.3	12.0	mA
	$I_{LOAD} = 700 \text{mA}, T_J = 125 ^{\circ}\text{C (Note 6)}$			8.8		mA
	$I_{LOAD} = 1.5A$	•		22	40	mA
	$I_{LOAD} = 3A$	•		85	140	mA
Sense Pin Current (Notes 3, 7)	T _J = 25°C		90	130	250	μΑ
Shutdown Threshold	V _{OUT} = Off-to-On	•		1.20	2.80	V
	$V_{OUT} = On-to-Off$	•	0.25	0.75		V
Shutdown Pin Current (Note 8)	$V_{\overline{SHDN}} = 0V$	•		37	100	μA
Quiescent Current in Shutdown (Note 9)	$V_{IN} = 6V$, $V_{\overline{SHDN}} = 0V$	•		110	220	μA
Ripple Rejection	$V_{IN} - V_{OUT} = 1V(Avg), V_{RIPPLE} = 0.5V_{P-P},$		50	67		dB
	$f_{RIPPLE} = 120Hz$, $I_{LOAD} = 1.5A$					
Current Limit	$V_{IN} - V_{OUT} = 7V$, $T_J = 25$ °C			4.5		А
	$V_{IN} = 4.3V$, $\Delta V_{OUT} = -0.1V$	•	3.2	4.0		Α
Input Reverse Leakage Current	$V_{IN} = -15V$, $V_{OUT} = 0V$	•			1.0	mA
Reverse Output Current (Note 10)	$V_{OUT} = 3.3V, V_{IN} = 0V$			120	250	μΑ

The ● denotes specifications which apply over the full operating temperature range.

Note 1: The Shutdown pin input voltage rating is required for a low impedance source. Internal protection devices connected to the Shutdown pin will turn on and clamp the pin to approximately 7V or -0.6V. This range allows the use of 5V logic devices to drive the pin directly. For high impedance sources or logic running on supply voltages greater than 5.5V, the maximum current driven into the Shutdown pin must be less than 5mA.

Note 2: Operating conditions are limited by maximum junction temperature. The regulated output voltage specification will not apply for all possible combinations of input voltage and output current. When operating at maximum input voltage, the output current must be limited. When operating at maximum output current, the input voltage range must be limited.

Note 3: The LT1528 is tested and specified with the Sense pin connected to the Output pin.

Note 4: Dropout voltage is the minimum input/output voltage required to maintain regulation at the specified output current. In dropout the output voltage will be equal to: $(V_{IN} - V_{DROPOUT})$.

Note 5: Ground pin current is tested with $V_{IN} = V_{OUT}$ (nominal) and a current source load. This means that the device is tested while operating in its dropout region. This is the worst-case Ground pin current. The Ground pin current will decrease slightly at higher input voltages.

Note 6: Ground pin current will rise at $T_J > 75^{\circ}\text{C}$. This is due to internal circuitry designed to compensate for leakage currents in the output transistor at high temperatures. This allows quiescent current to be minimized at lower temperatures, yet maintain output regulation at high temperatures with light loads. See quiescent current curve in typical performance characteristics section.

Note 7: Sense pin current flows into the Sense pin.

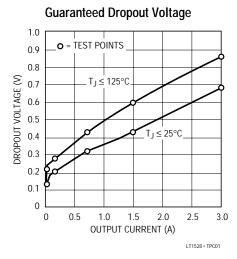
Note 8: Shutdown pin current at $V_{\overline{SHDN}} = 0V$ flows out of the Shutdown pin.

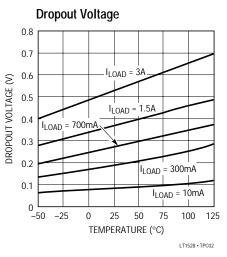
Note 9: Quiescent current in shutdown is equal to the total sum of the Shutdown pin current (40μA) and the Ground pin current (70μA).

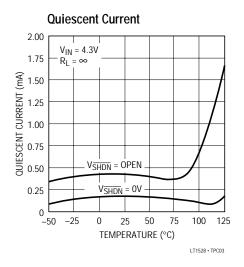
Note 10: Reverse output current is tested with the input pin grounded and the Output pin forced to the rated output voltage. This current flows into the Output pin and out of the Ground pin.

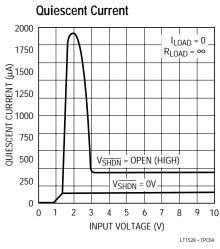


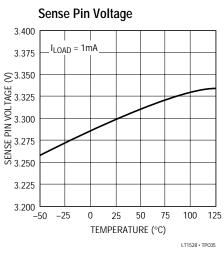
TYPICAL PERFORMANCE CHARACTERISTICS

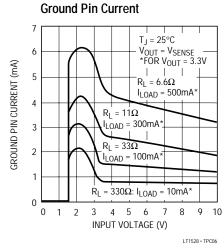


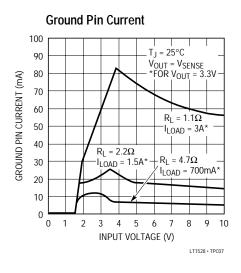


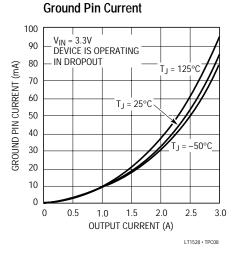


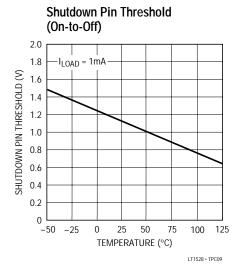




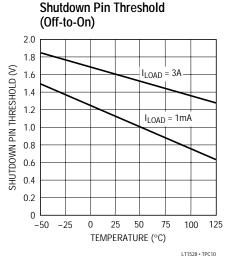


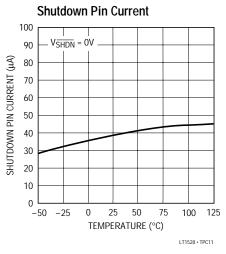


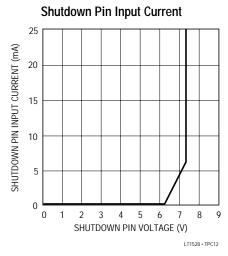


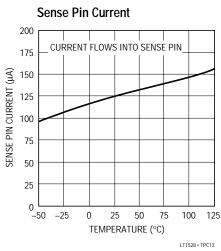


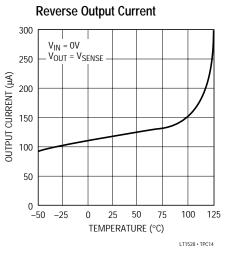
TYPICAL PERFORMANCE CHARACTERISTICS

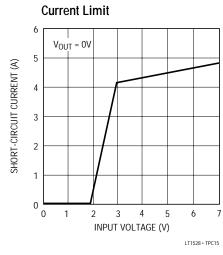


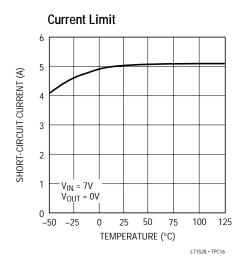


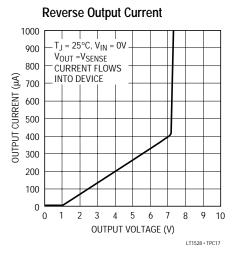


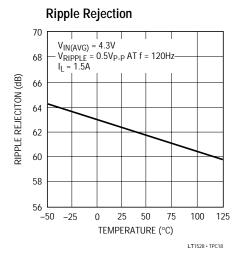




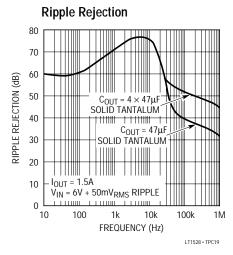


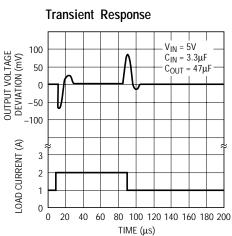


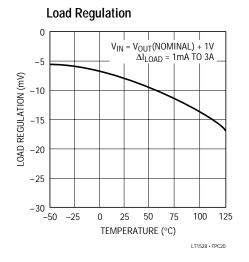


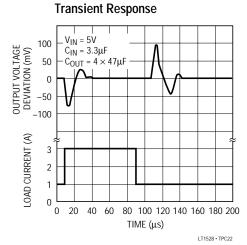


TYPICAL PERFORMANCE CHARACTERISTICS









ピン機能

OUTPUT(ピン1): 出力ピンは負荷に電源を供給します。発振を防止するために、最小3.3µFの出力コンデンサが必要です。高速マイクロプロセッサで要求される過渡性能を達成するには、さらに大きな容量が必要です。出力容量および逆出力特性に関する情報については、アプリケーション情報のセクションを参照してください。

LT1528 • TPC21

SENSE(ピン2): センス・ピンは誤差アンプの入力です。センス・ピンが出力ピンに接続される点で、最適なレギュレーションが得られます。大部分のアプリケーションでは、センス・ピンはレギュレータの出力ピンに直接接続されます。精度要求が厳しいアプリケーションでは、一般にレギュレーションを低下させる要因となるレギュレータと負荷の間のPCトレース抵抗(Rp)によっ

て生じる小さな電圧ドロップは、図1(ケルビン・センス接続)に示すとおり、センス・ピンを負荷の出力ピンに接続すれば排除できます。外部PCトレース間の電圧ドロップが、レギュレータのドロップアウト電圧に追加されることに注意してくだい。標準レギュレート出力電圧でのセンス・ピンのバイアス電流は150μAです。代表的性能特性セクションのセンス・ピン電流対温度を参照してください。このピンは内部で - 0.6V(1VBE)にクランプされています。

センス・ピンを抵抗分圧器とともに使用すれば、3.3V以上の出力電圧を得ることも可能です。可変動作については、アプリケーション情報のセクションを参照してください。

ピン機能

するのに使用されます。シャットダウンすると、デバイ スの出力はオフになります。このピンはアクティブ"L" です。デバイスは、シャットダウン・ピンがアクティブ な" L "にプルダウンされるとシャットダウンします。 シャットダウン・ピンがグランドにプルダウンされたと き、このピンを流れる電流は60µAです。シャットダウ ン・ピンは、内部で7Vと - 0.6V(1V_{BE})にクランプされ ます。このため、シャットダウン・ピンは5Vロジッ ク、またはプルアップ抵抗が接続されたオープン・コレ クタ・ロジックで直接駆動できます。プルアップ抵抗 は、一般に数マイクロアンペアであるオープン・コレク タ・ゲートのリーク電流を供給するためだけに必要で す。プルアップ電流は最大5mAに制限しなければなりま せん。電圧に対するシャットダウン・ピン入力電流の曲 線を、代表的性能特性に示します。シャットダウン・ピ ンは使用しないときには、開放しておくことができま す。シャットダウン・ピンを接続しなかった場合は、デ バイスがアクティブで出力が現れます。

V_{IN}(ピン5): 電源は入力ピンを通してデバイスに供給されます。デバイスがメイン入力フィルタ・コンデンサから6インチ以上離れている場合は、入力ピンをグランドにバイパスしなければなりません。LT1528はグランドおよび出力ピンの両方を基準にして、入力ピンに逆電圧が印加されても耐えられるように設計されています。入力が逆電圧になった場合には、LT1528は入力と直列にダイオードが接続されているかのように動作します。LT1528には逆電流は流れず、負荷に逆電圧は現れません。デバイスは自身と負荷の両方を保護します。

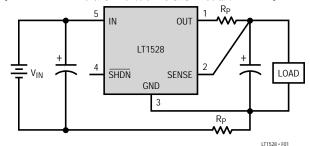


Figure 1. Kelvin Sense Connection

アプリケーション情報

LT1528は、マイクロプロセッサ・アプリケーションに 最適な3Aの低ドロップアウト・レギュレータです。 0.6Vのドロップアウト電圧で3Aの出力電流を供給でき ます。センス・ピンを出力ピンに短絡すれば、出力電圧 は3.3Vに設定されます。このデバイスは400μAの静止電 流で動作します。静止電流は、シャットダウン時にはわ ずか125μAに減少します。LT1528は逆入力電圧保護を含 むいくつかの保護機能を備えています。入力がグランド にプルダウンされたときに、出力が定格出力電圧に保持 された場合、LT1528は出力と直列にダイオードが接続 されているかのように動作し逆電流を防止します。

可変動作

LT1528は、出力電圧範囲が3.3Vから14Vの可変電圧レギュレータとして使用できます。出力電圧は図2に示すとおり、2本の外部抵抗の比で設定されます。センス・ピンの電圧を3.3Vに維持して出力電圧を変化させます。したがって、R1を流れる電流は3.3V/R1になります。R2を流れる電流は、R1の電流とセンス・ピンのバイアス電流の和になります。センス・ピンのバイアス電流は、25 では130µAでありR2を通してセンス・ピンに流入します。出力電圧は図2の式に従って計算できます。セン

ス・ピンのバイアス電流による出力電圧誤差を最小限に抑えるには、R1の値を330 以下にしなければなりません。シャットダウン時には出力がオフになり、分圧器電流がゼロになることに注意してください。センス・ピン電圧対温度、およびセンス・ピンのバイアス電流対温度の曲線を代表的性能特性に示します。

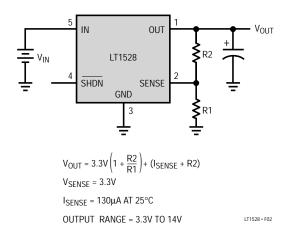


Figure 2. Adjustable Operation

アプリケーション情報

LT1528はセンス・ピンを出力ピンに接続した状態で規定されています。これによって、出力電圧は3.3Vに設定されます。3.3V以上の出力電圧に対する仕様は、希望の出力電圧と3.3Vの比($V_{OUT}/3.3$ V)に比例します。例として、1mAから1.5Aの出力電流変化に対するロード・レギュレーションは、 $V_{OUT}=3.3$ Vでは -0.5mV(標準)になります。 $V_{OUT}=12$ Vでのロード・レギュレーションは次式で表されます。

 $(12V/3.3V) \times (-5mV) = (-18mV)$

熱に関する考察

デバイスの電力処理能力は、最大定格接合部温度 (125)で制限されます。デバイスで消費される電力 は、次の2つの要素で構成されます。

- 出力電流と入力/出力の電圧差との積: I_{OUT}×(V_{IN} - V_{OUT})、および
- 2. グランド・ピン電流と入力電圧との積: I_{GND} × V_{IN} グランド・ピン電流は、代表的性能特性のグランド・ピン電流曲線から求めることができます。消費 電力は上記の2つの要素の和になります。

LT1528シリーズ・レギュレータは、過負荷状態でデバイスを保護するために設計された内部サーマル・リミット回路を備えています。連続的な通常の負荷条件では、125の最大接合部温度定格を超えてはなりません。ジャンクションから周囲までの熱抵抗のあらゆる原因について、注意深く検討することが重要です。デバイス近くに実装されている熱発生源についても検討が必要です。

表面実装デバイスの場合、放熱はPCボードと銅トレースの放熱機能を利用して行われます。実験から放熱銅レイヤを電気的にデバイスのタブに接続する必要がないことがわかっています。PC材料は、デバイス・タブに取りつけられたパッド領域と、ボードの内側あるいは反対側にあるグランドまたはパワー・プレーン層との間での熱伝達にきわめて有効です。PC材料の実際の熱抵抗は高くなっていますが、層間の熱抵抗の長さ/面積比は小さくなります。銅板強固材やメッキ・スルーホールを使用しても、パワー・デバイスが発生する熱を放散できます。

表1aにDDパッケージの熱抵抗を示します。TO-220パッケージ(表1b)の場合、このパッケージは通常ヒートシンクに実装されるため、熱抵抗は接合部 - ケース間についてしか規定されていません。数種類の異なるボード・サイズおよび銅面積に対する熱抵抗の測定値を、DDパッ

ケージについてリストします。すべての測定値は、1オンスの銅フォイルをもつ3/32" FR-4ボードを使用し、静止雰囲気で得られたものです。このデータは、熱抵抗を推定する際におおまかなガイドラインとして使用できます。各アプリケーションの熱抵抗は、ボード上の他の部品との熱作用やボードのサイズと形状によって影響を受けます。実際の値を決定するには実験が必要です。

Table 1a. Q-Package, 5-Lead DD

COPPE	COPPER AREA		THERMAL RESISTANCE
TOPSIDE*	BACKSIDE	BOARD AREA	(JUNCTION-TO-AMBIENT)
2500 sq mm	2500 sq mm	2500 sq mm	23°C/W
1000 sq mm	2500 sq mm	2500 sq mm	25°C/W
125 sq mm	2500 sq mm	2500 sq mm	33°C/W

^{*}Device is mounted on topside.

Table 1b. T Package, 5-Lead TO-220

Thermal Resistance (Junction-to-Case)	2.5°C/W

接合部温度の計算

例:出力電圧を3.3V、入力電圧範囲を4.5Vから5.5V、出力電流範囲を0mAから500mA、最大周囲温度を50 とすると、最大接合部温度はいくらになるでしょうか?

デバイスの消費電力は次のようになります。

 $I_{OUT(MAX)} \times (V_{IN(MAX)} - V_{OUT}) + (I_{GND} \times V_{IN(MAX)})$

ただし、

 $I_{OUT(MAX)} = 500mA$

 $V_{IN(MAX)} = 5.5V$

 $I_{GND}(I_{OUT} = 500 \text{mA}, V_{IN} = 5.5 \text{V}) = 4 \text{mA}$

したがって、

 $P = 500 \text{mA} \times (5.5 \text{V} - 3.3 \text{V}) + (4 \text{mA} \times 5.5 \text{V}) = 1.12 \text{W}$

DDパッケージを使用すると仮定すると、熱抵抗は銅面積に応じて23 /Wから33 /Wになります。したがって、周囲温度からの接合部温度上昇の概算値は次のようになります。

 $1.12W \times 28$ /W = 31.4

アプリケーション情報

これにより、最大接合部温度は、周囲温度からの最大接合部温度上昇に、最大周囲温度を加えた値になり、次のとおり表されます。

 $T_{\text{JMAX}} = 50 + 31.4 = 81.4$

出力容量と過渡性能

LT1528は、広範囲の出力コンデンサに対して安定動作するように設計されています。出力コンデンサの最小推奨値は、ESRが2 以下の3.3µFです。LT1528はマイクロパワー・デバイスであり、出力過渡応答は出力容量に関係します。代表的性能特性の過渡応答曲線を参照してください。出力容量が大きくなるとピーク偏移が低下し、大きな負荷過渡電流に対する出力過渡応答が改善されます。LT1528が電力を供給する各部品をデカップリングするのにバイパス・コンデンサを使用すると、出力コンデンサの実効値が増大します。

マイクロプロセッサ・アプリケーション

LT1528は、マイクロプロセッサ・アプリケーションに最適化されており、現在入手可能なPNPレギュレータの中では最高速の過渡応答を達成しています。現世代のマイクロプロセッサの大きな負荷過渡電流を処理するには、出力コンデンサ容量を増やす必要があります。多くのポピュラーなプロセッサのワーストケース電圧仕様を満足するために、マイクロプロセッサ側で4個の47µF固形タンタル表面実装型コンデンサを用いてデカップリングを行ってください。これらのコンデンサは、ワーストケース負荷変動時の過渡応答を最小限に抑えるために、約0.1 ~0.2 のESRでなければなりません。代表的なアプリケーションに何種類かのマイクロプロセッサ用電源

に必要な接続を示します。このアプリケーションでは、出 力電圧をジャンパで選択できるようになっています。

保護機能

LT1528には、モノリシック・レギュレータに関連する 通常の保護機能に加えて、電流制限や熱制限など、いく つかの保護機能を内蔵しています。このデバイスは逆入 力電圧および出力から入力への逆電圧に対して保護され ています。

電流制限保護および熱過負荷保護機能は、デバイスをデバイス出力の電流過負荷状態から保護するためのものです。通常動作では、接合部温度が125 を超えてはなりません。

デバイスの入力は15Vの逆電圧に耐えることができます。 デバイスに流入する電流は、1mA以下(標準では100μA以下)に制限されるため、出力に負電圧が現れることはありません。デバイスは自身と負荷の両方を保護します。

センス・ピンは内部でグランドより1ダイオード電圧降下分だけ低い電圧にクランプされます。入力が開放または接地された状態で、センス・ピンがグランド以下になる場合は、電流を5mA以下に制限しなければなりません。

レギュレータ回路では、いくつかの異なる入力/出力状態が生ずる可能性があります。入力がグランドまたは中間電圧にプルダウンされるか、あるいは開放されているときに、出力電圧を持続することができます。出力に逆流する電流は、これらの状態に応じて変化します。多くの回路は、何らかのパワー・マネージメント機能を内蔵しています。表2にこれらの情報を要約していますので、消費電力を最適化する際の参考にしてください。

Table 2. Fault Conditions

INPUT PIN	SHDN PIN	OUTPUT/SENSE PINS	RESULTING CONDITIONS
< V _{OUT} (Nominal)	Open (High)	Forced to V _{OUT} (Nominal)	Reverse Output Current ≈ 150µA (See Figure 3) Input Current ≈ 1µA (See Figure 4)
< V _{OUT} (Nominal)	Grounded	Forced to V _{OUT} (Nominal)	Reverse Output Current ≈ 150µA (See Figure 3) Input Current ≈ 1µA (See Figure 4)
Open	Open (High)	> 1V	Reverse Output Current ≈ 150µA (See Figure 3)
Open	Grounded	> 1V	Reverse Output Current ≈ 150µA (See Figure 3)
≤ 0.8V	Open (High)	≤ 0V	Output Current = 0
≤ 0.8V	Grounded	≤ 0V	Output Current = 0
> 1.5V	Open (High)	≤ 0V	Output Current = Short-Circuit Current
-15V < V _{IN} < 15V	Grounded	≤ 0V	Output Current = 0

アプリケーション情報

入力を接地すると、逆出力電流は図3の曲線に示すとおりに流れます。この電流は出力ピンを通ってグランドに流れ込みます。入力ピンがグランドにプルダウンされた場合、シャットダウン・ピンの状態は出力電流に影響を与えません。

アプリケーション回路によっては、出力を"H"にしたときに、LT1528への入力を接続しないようにする必要があります。LT1528が整流されたAC電源から給電されるときなどがこれに該当します。AC電源を取り除けば、LT1528の出力は実質上フローティング状態になります。入力ピンが開放されている場合にも、図3の曲線に示すとおりに逆出力電流が流れます。入力ピンがフロートしている場合、シャットダウン・ピンの状態は逆出力電流に影響を与えません。

LT1528の入力を標準出力電圧より低い電圧にし、出力を"H"に保持すると、出力電流は図3の曲線に示すとおりに流れます。この状態はLT1528の入力が"L"電圧に接続され、出力が二次レギュレータ回路で維持されるときに起こる可能性があります。入力ピンを出力ピンより低い電圧にするか、出力ピンを入力ピンより高い電圧にすると、入力電流は標準で2µA以下に低下します(図4参照)。出力ピンを入力ピンより高い電圧にした場合、シャットダウン・ピンの状態は逆出力電流には影響を与えません。

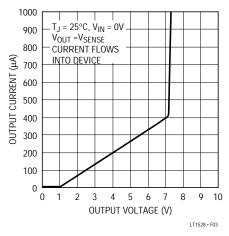


Figure 3. Reverse Output Current

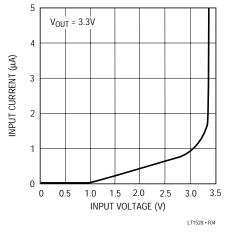


Figure 4. Input Current

RELATED PARTS

PART NUMBER	DESCRIPTION	COMMENTS
LTC®1265	High Efficiency Step-Down Switching Regulator	>90% Efficient 1A, 5V to 3.3V Conversion
LTC1266	Synchronous Switching Controller	>90% Efficient High Current Microprocessor Supply
LT1521	300mA Micropower Low Dropout Regulator	15µA Quiescent Current
LT1584	7A Low Dropout Fast Transient Response Regulator	For High Performance Microprocessors
LT1585	4.6A Low Dropout Fast Transient Response Regulator	For High Performance Microprocessors